トエ2V-44
特256
540

[illegible]の支那貿易

事變勃發により全支を通じて最も打撃の大きかつたのは上海の對外貿易であ[illegible]那隨一の貿易港を誇つた上海も以來その王座を南支の九龍、廣東等に奪はれ續けて來たが本年一月以來漸次に恢復を續け、更にこゝ二、三ケ月間は物凄い復興振りを示し九月に入つて遂ひに再び全支諸港のうへに君臨する日が來た、即ち九龍は天津、廣東、九龍等北支、南支の貿易額の減退に對して獨り上海のみは約三割近く激増し總額五千四百萬元を示したのである、また最近の全支貿易を見るとき見逃せないのは對日貿易の躍進振りである、輸出額に於て末だ香港に首位を讓るとは云へ輸人額また貿易總額に於て遙に各國を凌駕するに至つたのであり今後廣東陷落による香港の地位の失墜は必至でありこれに代るものとして上海のそれと同樣に日本は更に一段の躍進を期待されてゐる。

△七月全支貿易

海關税務司發表による七月中の支那對外貿易は左の通りで前月に比し輸入六パーセント減、輸出四パーセント增、出超增加七百四十三万元で前月に引續き出超を示した（單位千元）

純輸入	六七、〇七四
純輸出	七七、二六三
出超	一〇、一八九

今之を國府と新政權統治下の兩地域に二大別すれば次の通りで、國府統治下の地域に於ては輸出增、輸入減、新政權統治下の地域に於ては輸出減、輸入增の傾向が注目されるが、貿易總額は後者が前者の二倍半に達してゐる（單位千元）

△國府統治下

六月	輸入	二〇、四八九
同	輸出	二四、九四一
七月	輸入	一二、五三三
同	輸出	二八、〇一六

△新政權統治下

六月	輸入	五一、六六二
同	輸出	四九、四九五
七月	輸入	五五、二〇二
同	輸出	四八、三〇〇

本年七月を昨年同期に比すれば輸入四十五パーセント減、輸出十三パーセント減である、なほ七月中の全支銀輸出高は千五百九十九万弗で、前月に比し千百七万八千弗增、その內廣東よりの輸出八百八十三万六千弗であつた、一月より七ケ月間の輸出を見るに本年は七千三百七十二万弗、昨年は五千四百九十七万四千弗、その內本年廣東よりの輸出は四千四百六十一万九千元、昨年の上海よりの輸出は五千四百九十五万八千元である。

△八月中の全支對外貿易

海關貿易統計に據れば本年八月中に於ける全支の對外貿易額は輸入七七、一一〇、〇五一元、輸出八〇、二〇三、六〇八元で合計貿易總額一五七、三一三、六五九元差引出超三、〇九三、五五七元である、これを前七月に比較すれば輸人の一千万元即ち一四・九六％の激增に對して輸出は僅かに三・八一％の增加ながら出超額に於であつて貿易總額に於ては千三百万元即ち八・九九％の增加

ては七月の一千万元に對して八月は三百万元で七百万元即ち六九・六四%の激減である、更に昨年八月に比較すれば輸入三・〇二%輸出七七・三五%共に激増で總額に於て五六・二四%の激増となつてゐる、なほ本年一月以降八ケ月間の貿易額の累計を見れば輸入五八八、二五六、一〇一元輸出四八〇、〇七二、八七五元、貿易總額一、〇六八、三二八、九七六元、入超一〇八、一八三、二二六元であり昨年同期に比し輸入二五・一二%減、輸出二二・一八%減、結局貿易總額に於て二三・八三%の減少となり入超額も三五・八九%となつてゐる

（單位千元）

	輸入	輸出	貿易總額	出入超
本年八月	七七一一〇	八〇二〇三	一五七三一三	出 三〇九三
同 七月	六七〇七四	七七二六三	一四四三三七	出 一〇一八八
昨年八月	五五四六五	四五二二三	一〇〇六八八	入 〇二四一
本年累計	五八八二五六	四八〇〇七二	一〇六七三二八	入 一〇八一八五
昨年同期	七八五六一〇	六一六八六三	一四〇二四七三	入 一六八七五六

八月中の全支國別貿易

海關貿易統計に據つて本年八月の全支對外貿易を各國別に見るに先づ輸入側では日本の二三、八二五、二五三元が筆頭であり米、獨、英、關東州、蘭領印度、香港の順位であるが、本年七月に比し關東州が二六・五五%減少を示

したほかは何れも激増してゐる、なほこれを昨年八月に比較すれば關東州が一・〇三七・五三%の大激増を告げたに續いて日、英、獨、香港等は増加してゐるが、米國及び蘭領印度は減少してゐる。

次ぎに輸出側を見れば香港を筆頭に、日本が第二位となり米、英、獨、關東州の順位であるが本年七月に比較すれば米國、香港、關東州の増加に對して日、英、獨は減少を示してゐる、更に昨年八月に比較すれば日本が一三五・七一%の激減、米國また三・七〇%の減少に對して英國、獨逸、香港、關東州等は何れも増加してゐるなほ本年一月以降八月までの全支の國別貿易額の累計を見れば輸入側では米國が筆頭で輸入總額の一八・二四%を占め日本これに次ぎ一七・九二%、更に獨、英の次位であり昨年同期に比較して日、英米、獨、蘭領印度等が減少し關東州、佛領印度支那、香港、伊太利、佛蘭西等は増加してゐる、輸出側では香港が筆頭で日本は次位となり米、獨、英、關東州これに次いでゐるが、昨年同期に比し英、米、獨何れも減少したに對して日、香港、關東州は共に増加してゐる

△輸入 （單位千元）

	一九三八年八月	一九三八年七月
日本	二八、八二五	一九、七〇一
英國	六、七七七	五、八四九
米國	一二、一三七	一〇、七六六
獨逸	八、八五五	八、〇八九
香港	二、三五八	二、四五三
關東州	三、七五七	五、一一五
蘭領印度	三、七三五	二、九四六

△輸出

	一九三八年八月	一九三八年七月
日本	一〇四一	一四四五
英國	五四〇八	五五七
米國	八七五八	七一二〇
獨逸	五一八三	六五八〇
香港	二九六七一	二四三六六
關東州	三、九四二	三、七〇五

八月中の港別貿易

海關貿易統計に據つて本年八月中の全支對外貿易を港別に見れば輸入側では總額七千八百万元のうち北支が三千七百万元を占め中支二千二百万元、南支二千万元となつてゐるが、本年七月に比し北支は天津、青島何れも激増のため二二・三七％の増加となり中支は依然振はず上海、漢口の減少から一四・九五％減を示したが南支は廣東、汕頭、廈門何れも激増し結局六一・六二％増となつてゐる。輸出側では總額八千万元のうち南支が三千百万元、北支が二千六百万元、中支二千三百万元であり本年七月に比し北支は天津の不振から六・〇一％減となり中支は上海より漢口の激増から一一・四三％増となり、南支は九龍港僅かの減少ながら廈門の躍進で八・〇六％

増となつてゐる。なほ本年一月以降八月までの累計を見れば輸入側では北支の一億九千万元、南支の二億四千万元、中支一億六千万元となりこれを昨年同期と比較すれば北支は青島の不振にも拘らず天津の激増で五七・四四％増を示し中支は上海、漢口何れも激減し七〇・二六％減となり南支は廈門、梧州不振ながら九龍、廣東等の躍進で八六・七二％増を告げた、次に輸出側を見れば諸港出入の趨勢は輸入側と殆んど同様であり昨年同期に比し北支一・六二％減、中支六五・三八％減ながら南支は七六・六二％増を示してゐる。（單位ー千元）

△輸入

	一九三八年八月	一九三八年七月	一九三七年八月	一九三八年一月ー八月	一九三七年一月ー八月
總額	七八、一〇二	六七、七三四	五五、六一五	五九二、七二三	七八七、二〇三
北支	三七、一二〇	三〇、三三九	五、四八三	一八八、三五二	一一九、六三六
天津	二七、四〇六	二二、二五九	六八五	一四五、六五五	六九、七一九
青島	五、八九八	三、六八四	四、〇〇九	一六、九二〇	四一、〇三八
中支	二一、六〇六	二五、四〇四	三六、〇七六	一五九、五五四	五三六、四五〇
上海	二一、一七二	二四、七〇〇	二八、二九〇	一五二、五二九	四六九、九四一
漢口	二三五	三〇七	三、五七一	二、三〇二	二八、二六二
南支	一九、三六七	一一、九九〇	一四、〇五五	二四四、八一七	一三一、一一七
九龍	六、一一〇	四、七八九	六、二一二	一三三、一六一	四二、一五四
廣東	六、〇三一	三、七五二	三、二一三	四七、七七五	二四、一八二
汕頭	一、八七八	一、二三六	一、一六六	二九、七四二	二六、三六八
廈門	一、五一六	一六一	一、〇七二	六、四〇〇	九、八七〇
梧州	五二七	四九一	四八五	四、一三七	四、六九〇
蒙自	八三七	三六〇	四三八	七、二七五	七、二一八

△輸出

總額	八〇、二六四	七七、三一五	四五、二七三	四八〇、四九九	六一七、一一九
北支	二六、四七三	二八、一六六	六、一八三	一六三、九三五	一六六、六三六
天津	一七、〇五二	一八、七九八	一、七四四	一七、九一一	九九、七六八
青島	四、〇四一	四、八三一	二、五一七	一七、一五〇	七八、八八九
中支	二〇、五五二	二〇、二三九	二四、六四九	一一六、七九三	三二七、三六三
上海	二一、一九四	二〇、一〇二	二三、七七五	一一四、三四六	三二五、七八一
漢口	三七	四	六五七	三一五	八、八〇一
南支	三一、二三七	二八、九〇九	一四、四四〇	一九九、七七一	一一三、一一一
九龍	四、〇九三	六、五一九	七四一	二三、八五一	四、七九二
廣東	一五、〇一四	九、六三八	五、九一二	八四、九五六	三七、二八七
汕頭	三、四二一	三、四五二	一、一四一	二二、六六六	一七、一九〇
廈門	二四三	三一	四〇七	二、二九一	二、九五五
梧州	三、一〇〇	一、九三七	二、二八〇	一八、七五二	一七、四五七
蒙自	一、三一二	五、〇二七	二、一五九	二五、一七一	八、四〇三

△九月の全支對外貿易

海關貿易統計に據つて本年九月中に於ける全支の對外貿易額を見るに輸入七五、一三七、五六六元、輸出七九、八二二、七九三元、合計貿易總額一五四、九六〇、三五九元、差引出超四、六八五、二二七元である。

これを八月に比較すれば輸入は二・五六%、輸出は〇・四七%の共に減少であり従つて総額に於て一・五〇%増を示してゐるが出超額は百六十万元卽ち五一・四五%の激増となつてゐる、更に昨年九月に比較すれば輸入一二〇・〇八%増輸出一八・八六%増、総額五二・九七%増であり出超額は八五・八一%の激減を告げてゐる。

次ぎに本年一月以降九月までの貿易額の累計を見るに輸入六六三、六六七元、輸出五五九、八九五、六六八元、総額一、二二三、二八九、三三五元、出超一〇三、四九七、九九九元であり昨年同期に比較して輸入一九・〇七%輸出一八・一五%、総額一八・六五%の何れも減少であり入超も二三七五%減となつてゐる。

（単位ー元）

	輸入	輸出	貿易総額	出入
本年九月	七五、一三七、五六六	七九、八二二、七九二	一五四、九六〇、三五九出	四、六八五、二二七
同　八月	七七、一一〇、〇五一	八〇、二〇三、六〇八	一五七、三一三、六五九出	三、〇九二、五五七
昨年九月	三四、一四〇、五九九	六七、一五九、二七四	一〇一、一九九、八七三出	三三、〇一八、六七五
本年累計	六六三、三九三、六六七	五五九、八九五、六六八	一、二二三、二八九、三三五入	一〇三、四九七、九九九
昨年同期	八一九、七六〇、八九〇	六八四、〇二二、一三三	一、五〇三、七八四、〇二三入	一三五、七三七、七五七

九月中各國別貿易

更に同じく海關貿易統計によつて本年九月中に於ける全支の對外貿易額を主要國別に見るに先づ輸入側では日本の二千四百七十六万元が斷然筆頭であり米、獨、英の順位となつており八月に比較して日本三〇・九一%米國二〇・七%

の共に增加ながら英國は二七・五二%の激減で獨逸もまた二・一七%減となつてゐる、これを昨年九月と比較すれば日本は九五一・二七%の著增であり香港一二四・八八%、米國九九・九五%獨逸九九・五五%のそれぞれ增加ながら英國のみは五・〇七%の減少となつてゐる。

次に輸出側を見るに香港向けの二二、九一六、七一七元を筆頭に米、日、獨、英の順位であり八月に比較して香港向けが二二・七七%減少したのみであり其の他各國共に何れも增加してゐる、更に昨年九月に比較すれば日本向けは實に二二五・〇一%の激增であり獨逸三九・一五%、香港八・四二%增であるが英、米、關東州はともに減少を告げてゐる。

次に本年一月以降の累計を見るに輸入側ではこれまた日本が筆頭であり米、獨、英の順位であるが昨年同期に比し何れも減少してゐる、輸出側では香港が首位で日、米、獨、英の順位であるが昨年同期に比較すれば日本は一四・八九%增でこのほか香港が增加したほかは英米、獨何れも減少してゐる。

(單位千元)

△輸入

	本年九月	昨年九月
日本	一四、七五七	二、五九二
英國	四九一二	五、一七四
米國	一一、四七七	七、四二三
獨逸	八、六六二	四三三二
香港	二、八七一	一、二七六
蘭領印度	三、三八九	四三二一
關東州	四一四八	一〇三

△輸出

	本年九月	昨年九月
日本	一〇、七六九	三、三一三
英國	五、六〇四	七、〇五二
米國	一一、六六一	一五、〇四一
獨逸	六、三二八	四五四六
香港	二二、九一六	二一、二三六
關東州	六、〇二二	一、一七四

九月中の各港別貿易

次ぎに海關貿易統計について九月の全支對外貿易を各港別に見るに輸入側では上海港の二千六百万元が首位であり天津、廣東、青島、九龍の順位であるがこれを地方別に見るに北支、中支、南支の順位で九月に比較すれば最近まで首位を占めてゐた南支も廣東、九龍、廈門の減退によつて一七・三二%の減少を示し北支もまた天津、青島港の減少により一一・三四%減を現示するに至り、獨り中支のみは上海港の二五・〇三%増、漢口の四五・九四%増により二五・二六%の激増を告げるに至つた。

輸出側を見ると上海港の二七・九四〇、二九三元が第一位であり天津、廣東の順位であり地方別に見ても中支、北支、南支の順位で八月に比較して北支は天津港の一二・二五%増により僅かに二・二〇%増加したのみであり南支は九龍、廣東、汕頭等の激減で一九・八八%の減少を告げたが中支は上海三〇・三二%、漢口一六・八七%増で結局二三・〇%増を示すに至つた。

△輸入

	一九三八年九月	一九三七年九月
總額	七五、九九三	三四、四八五
北支	三二、九一六	七、〇〇六
天津	二三、四七二	四四、七三五
青島	五、二〇四	一、四一三
中支	二七〇六四	一三、三八五
上海	二六、四七三	七、四六七
漢口	三四四	一、六三一

△

	一九三八年九月	一九三七年九月
南支	一六、〇一二	一四、〇九四
九龍	四、一五七	三、七二三
廣東	五、三五〇	三、〇〇三
汕頭	二、八四七	二、五〇八
廈門	八二八	一、五六二
梧州	七一五	九七四
蒙自	一、〇〇四	二九二

（単位ー千元）

△輸出

	一九三八年九月	一九三七年九月
總額	八〇、〇二四	六七、一六六
北支	二七、〇五七	一五、三〇八
天津	一九、一四一	七、七六九
青島	三、七九八	四六二二
中支	二七、九四〇	二八、〇六一
上海	二七、六二〇	二七、九三二
漢口	四三	六八
南支	二五、〇二七	二八、七九六
九龍	二、四三四	五一九
廣東	一一、七〇五	七、七六二
汕頭	三、〇三二	六、四四〇
廈門	二一七	五六一
梧州	一五〇四	一、六三二
蒙自	三、一六七	四四五八

△十月の全支對外貿易

海關貿易統計によつて本年十月中に於ける全支の對外貿易額を見るに輸入七八、〇四〇、九一五元、輸出七六、一一三、六五七元、合計貿易總額一五四、一五四、五七二元、差引入超一、九二七、二五八元である、これを九月に比較すれば輸入二百九十万元即ち三・八六%の増加に對して輸出は三百七十万元即ち四・六五%の減少であり結局總額に於て八十万元即ち〇・五二%の微減、九月の出超四百六十八万元は遂に十月に於て百九十二万元の入超と逆轉したのである、しかしこれを昨年十月と比較すれば輸入に於て一一四・七九%、輸出に於て五六・一八%の共に増加であり總額は八一・二一%増を告げてゐる、次に本年一月以降十月までの貿易額の累計を見れば輸入七三九、七二二、

〇〇五元、輸出六三六、〇〇九、三二五元、貿易總額一、三七五、七三一、三三〇元、入超一〇三、七一二、六八〇元であり昨年同期に比し輸入一三・五九％輸出一三・二〇％のそれぞれ減少であり總額に於て一三・四一％減、入超がまた一五・九一％減を示してゐる。

（単位－千元）

	輸入	輸出	貿易總額	出入超
本年十月	七八〇四〇	七六一一三	一五四一五四	入 一、九〇七
同　九月	七五一三七	七九八二二	一五四九六〇	出 四六八五
昨年十月	三六三三三	四八七三五	八五〇六七	出 一二四〇〇
本年一月－十月	七三九七二二	六三六〇〇九	一、三七五七三一	入 一〇三、七一二
昨年同期	八五六〇九四	七三二七五六	一、五八八八五一	入 一二三、三二七

金銀輸出入統計

海關貿易統計によつて本年十月及び一月以降十月までの全支に於ける金銀輸出の状態を見れば左の如くである（金－海關金単位、銀－千元）

△種別

△輸入

金貨	一、四五一
金塊	五、三四一
銀貨	

△輸出

金塊	六一五
銀貨	七八、〇二四
銀塊	二、一二三

△國別
△金輸入　印度より
二三一
英國より
香港より　六、五六一
計　六、七九三
輸出　香港へ
六一五
△銀
輸入　英國より
輸出　英國へ
六、七七一
香港へ　七二〇八三
其他へ　一、二九三
計　〇、一四八

△港別
金輸入　廣東へ
一六四
上海へ　三、五八七
天津へ　一、〇〇〇
其他へ　二、〇四〇
合計　六、七九三
輸出　廣東より
二五九

其他より　三五六
計　六一五
△銀輸入　上海へ
輸出　廣東より
四六、〇五一
六八五
瓊州より　六、七七一
天津より　二六、六四〇
其他より　八〇、一四八
計

十月の全支國別貿易

輸入側では日本の二〇、六二五、七九〇元が筆頭で米國の一二、六一五、六三四元がこれに次ぎ獨逸、濠洲、英國、關東州、香港の順位である、日本は昨年十月に比し實に一七七五．五四%の素晴しい恢復振りを示してはゐるが九月よりは一六．六九%減となつてゐる、なほ九月に比し香港關東州が減少したに對してその他各國は何れも増加し特に濠洲は三三七．六三%の激増で輸入額の大半は小麥粉で占めてゐる、次に輸出側を見るに香港の二千五百万元が依然首位であるがこの殆んどは皇軍の南支攻略前の約二週間に行はれたものである、香港に次いで米、英、日順位であるが九月に比し香港が九．二七%、英國が四五．五六%増加したのみで日本は二一．八七%、米國は一一．六八%、獨逸は三三．六一%の何れも減少を告げてゐる、更らに本年一月以降十月までの累計を見るに輸入側ではこれまで日本の一億四千九百万元が首位で米國の一億三千二百万元がこれに次いでゐるが、これを昨年同期に比較すれば英國三五．五一%、米國二〇．三九%、獨逸二二．八七%、蘭領印度四七．六二%の減少に對して日本は一一．四六%の増加で關東州が二二六．五三%の激増を示したほか暹羅、佛領印度支那、濠洲、香港、佛蘭西、ビルマ等何れも増加してゐる、次ぎに輸出側を見れば香港向けの二億一千四百万元が斷然群を拔き、日本はこれに次ぎ九千九百万元であり昨年同期に比し日本は二三．四二%の増加で香港は六九．二五%增、關東州一一八．〇八%の激増で英國は二九．一七%、米國は六七．五八%獨逸は二七．七九%の何れも激減を示してゐる。

（單位ー千元）

△輸入

	本年十月	昨年十月	本年累計	昨年同期
日本	二〇、八二五	一、〇五九	一四九、八二二	一四七、六六一
英國	五、四三七	四、三一五	六二、八三八	九七、四三三
米國	一二、六一四	六、九〇一	一三二、一七九	一六六、〇四〇
獨逸	八、八八四	五、五〇一	九九、一四一	一二八、六七二
濠洲	七、七九九	八六九	二三、六九九	一五、一七八
蘭印	五、一六四	五、〇一二	三七、一六九	七〇、九五五
關東州	二、八〇六	六二	三〇、五五三	九、三五七
香港	二、四四二	一、四一〇	二一、二二〇	一五、八七五

△輸出

	本年十月	昨年十月	本年累計	昨年同期
日本	八、四一四	一、三四七	九九、三一〇	八〇、四六七
英國	八、四五七	五、九七四	四八、二六〇	六八、一三六
米國	一〇、二九八	九、一九五	六九、五一七	二一四、四四二
獨逸	四、二〇一	三、五八九	四五、六九一	六三、二七七
香港	二五、〇四一	一七、五二九	二一四、四六二	一二六、七一三
關東州	五、五五四	三八二	二九、一二五	一三、三五五

十月の全支港別貿易

輸入側では上海港の二千七百万元が筆頭で天津の二千五百万元これに次ぎ九龍、廣東等が更にこれに續いてゐるが総括的に見て北支が三千三百万元、中支は二千七百万元、南支が千七百万元であり九月に比較して特に目立つものは福州の一二八九・五八％の激増振りであるこれは南支攻略戰による貿易ルートの變動によるものであつて十三日皇軍南支上陸によつて國府の據る奥地に對する貿易ルートの要點をなしてゐた九龍、廣東の停頓によつて福州が南支に於ける唯一の航行自由なる商埠となつたゝめであり九龍、廣東のそれに比し軍需品と云つたものはないため金額に於て左程大きいものではないが貿易商品は福州を通じて相當奥地、南支に流入してゐる、なほ九龍港は三七・八〇％の激増を告げてゐるがこれは香港のもそれと同様殆んど上半月中に行はれたのである、また九龍は二八・五九％、廣東は三五・七三％、漢口は七〇・二四％の激減をなしてゐるがこれまた戰果擴大の結果によるものである結局九月に比し北支は一・三一％中支二・三九％、南支八・四八％の共に増加となつてゐる。

次に輸出側を見るにこれまた上海の二千三百萬元が首位で天津廣東等がこれに次いでゐるが北支二千五百萬元、中支同じく二千五百萬、南支二千六百萬であり九月に比し北支は天津の六・八六％減、青島の五一・一一％減で七・五八％の減少となつてゐる、また中支も上海の一七・〇八％、漢口の七〇・〇〇％減で一〇・三八％の減少となり南支は廣東、廈門、梧州等減少ながら九龍の三七・七八％、

福州の一〇五・八九%増で結局四・六一%増であるなほ本年一月以降十月までの累計を見るに輸入側では北支が二億五千二百万元、中支が二億一千四百万元、南支二億七千八百万元であり昨年同期に比し北支は青島減少ながら天津の激増で九〇・二五%増となり中支は上海、漢口共に激減で六一・九〇%減で南支は九龍、廣東等の激増で七一・〇九%増を告げてゐる。次に輸出側では北支二億一千六百万元、中支一億六千九百万元、南支二億五千万元で昨年同期に比し北支は一一・〇一%増で中支は五五・三〇%減、南支は五八・一九%増となつてゐる。（單位－千元）

△輸入

	本年十月	本年九月	昨年十月	本年累計	昨年同期
總額	七八、四二一	七五、九九三	三六、四二二	七四三、四二五	八五八、一一〇
北支	三三、二四七	三二、九一六	六、二六四	二五二、八五四	一三二、九〇七
天津	二五、二六九	二三、三七二	二、四八七	一九二、六三七	七六、五四二
青島	四、四四三	五、一〇六	二、八四八	二六、五七〇	四五、三〇〇
中支	二七、七一二	二七、〇六四	一二、七三九	二一四、三三三	五六二、五七五
上海	二七、二九四	二六、四七三	八、六六二	二〇六、二九七	四八六、〇七一
漢口	一〇二	三四四	一、八九二	二、七四九	三一、七八六
南支	一七、三七〇	一六、〇一二	一七、四一七	二七八、二四八	一六二、六二八
九龍	五、七二九	四、一五九	五、九七八	一四三、〇四八	五一、九二五
廣東	三、八二〇	五、三五〇	六、一二一	五六、九四六	三三、三〇八
汕頭	一、八二九	二、八四七	一、五三〇	三四、四二〇	三〇、四七五
廈門	一、一四二	八二八	六五五	八、四五一	一二、〇八八
福州	一、〇九九	七九	二七一	五、三一九	五、三六七
梧州	八九四	七一五	一、二四五	五、七四七	六、九〇九
蒙自	一、一五六	一、〇〇四	七一二	九、四三六	八、二二四

△輸出

	本年十月	本年九月	昨年十月	本年累計	昨年同期
總額	七六、二五五	八〇、〇二四	四八、七七八	六三六、七七九	七三三、〇五五
北支	二五、〇三三	二七、〇五七	一二、六五二	二一六、〇二六	一九四、五九六
天津	一七、八二八	一九、一四一	七、六三六	一五四、八八一	一一五、一七四
青島	一、八五七	三、七九八	二、九〇五	二二、八〇五	五六、四一七
中支	二五、〇四〇	二七、九四〇	一四、三七五	一六九、七七四	三七九、七九九
上海	二二、九〇一	二七、六二〇	一四、二三一	一六四、八六九	三六七、九四五
漢口	一三	四三	一三五	三七一	九、〇〇五
南支	二六、一八一	二五、〇二七	二一、七五〇	二五〇、九七九	一五八、六六〇
九龍	三、五五四	二、四三四	一、三二三	二九、六四一	六、六三五
廣東	一〇、〇三二	一一、七〇五	六、一三七	一〇六、六九四	五一、〇八八
汕頭	三、〇四五	三、〇三二	二、四四九	二八、六六〇	二六、〇八〇
廈門	一五一	二一七	五九八	一、六六〇	四、一二〇
福州	一、二二二	五九二	二、三六六	五、二三六	五、九八一
梧州	一、三九六	一、五七四	三、六二四	二一、七二四	二二、七一四
蒙自	一、七〇九	三、一六七	三、三四九	三三、〇五四	二六、二一〇

桐油輸出の近況

桐油が支那の特産物としてその重要輸出品であることは今更らいふまでもないが、その重要性は支那の植物性油輸出中に占める割合から見ても明かである、卽ち支那の植物性油輸出額の八〇パーセント以上は桐油で、この事實は事變中

においても同様であるいま、支那事變前たる一九三六年の生産高を見るに――

（単位千キンタル）

四川省	三三三
河南省	三〇二
湖北省	一八一
浙江省	一八一
廣西省	九一
其他	一五
合計	一、一〇四

――で、生産高合計百十万四千キンタルに對し、同年の輸出は八十六万七千キンタルで生産高の約八〇パーセントまで輸出されてゐる譯である。

△支那桐油輸出
一キンタルは百瓩

	數量千キンタル	價額千元
一九三一年	四八五	二三、一六一
三二年	七五四	三〇、二六一
三四年	六五二	二六、二一七
三五年	七三九	四一、五八三
三六年	八六七	七三、三七九
三七年	一、〇三〇	八九、八四六

	數量千キンタル	價額千元
三八年一―一〇月累計	六五九	三六、九六四
一九三七年一―七月平均	九九	九、一〇〇
八―一二月平均	六七	五、二二九
三八年一―一〇月平均	六六	三、六九六

事變後は輸出激減

またその輸出高は年々増大を示し、一九三七年には事變の勃發によつて重大影響を被つたにも拘らず百三万キンタルと稀有の額に達し一九三二年の二倍以上に及んでゐる、しかし事變後急減に轉じたことは勿論で、一九三七年一――七月平均九万九千キンタルに對し事變後たる八――十二月平均は六万七千キンタル、また本年一――十月平均は六万六千キンタルと約三分一を激減してゐるが、十月には七万三千キンタルと少増してゐることは注目される

最大需要者は米國

支那桐油最大の需要國はアメリカで事變前たる一九三六年には輸出總高八十六万七千キンタル中六十二万三千キンタルはアメリカ向輸出であつた、また一九三七年には輸出總額に占める割合に於いては少減したが、それでもなほ六十四万一千キンタルに上つた注目されるのは事變後に於ける香港向け輸出の激増で一九三六年の六万キンタルから一九三七年には二十一万二千キンタルに、また本年一――十月には五十二万四千キンタルに増加し、支那桐油輸出の大部分が香港を經由してゐたことが判る。

△支那桐油國別輸出高

一九三八年は一―一〇月累計　（單位千キンタル）

	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
アメリカ	五三二	四一〇	四九二	六二三	六四一	五七
香港	六八	八七	八七	六〇	二一二	五二四
イギリス	四六	三一	三七	三八	三七	二〇
ドイツ	一四	二二	二九	四三	四三	一四
オランダ	四一	三一	二一	一六	六	三
フランス	二二	三一	三一	三七	三七	一一
其他	三一	三九	四二	五〇	五四	三〇
合計	七五四	六五三	七三九	八六七	一、〇三〇	六五九

桐油輸出統制（支那側報道による）

「一、浙江省の桐油

財政部より全部温州で一擔三十一元の價格を以て貿易委員會により輸出された。浙江地區に戰火が及んだとき物産調整處は價格低落して農民の生計に影響するところ甚大なるをもつて貿易委員會に交渉した結果一擔八角二分七厘かた價格を引上げた、その後香港、上海が爲替關係により價格續騰したので物産調整處は更に貿易委員會にこれが値上げを要求したところ同委員會は價格を一擔三十八元半より四十一元、換算價格は一擔につき二元七分を増加することになつた、すでに物産調整處は桐油運銷總辦事處を通じて各桐油運銷所に通知し十一月より右の價格を實行した。

二、上海市場

十一月上旬上海の桐油在荷拂底し上等八百擔並品二千擔内外に過ぎない、輸出用とならぬ湖南洪江物は大分以前から品切れになつてゐたが、最近弗弗出廻つてゐるのは浙江福建物の密輸である、最近浙江省の金華、處州、嚴州に桐油販賣運輸局が設立され、同局の手で買集め輸出を圖つてゐる、事變直前の市價は擔四十四元五角であつたがその後昂騰の一途を辿り本年六月六十元、現在は九十五元を呼び並品ですら八十四元の高値である、洪江物は現在殆んど相場がないなほ浙江の地場で擔四十元の桐油が香港では

百元で賣買されてゐると云ふ。

茶輸出統制

國府貿易委員會では富華公司を設立して支那茶を統制し甲、乙の二級に分け甲種は必ず香港に集中し乙種は上海から自由に輸出することを規定したが從來茶葉の香港向け輸送は漢、廣九の兩鐵道で行はれてゐたところわが軍の南支作戰で廻路の遮斷を受けやむなく寧波或ひは溫州から外國船に積まれて各地に送られてゐるが本年度九月末までの輸出高は二千二百五十萬七千三十六元となり香港が九百五十五萬二千九百二十六元モロッコ六百五十二萬六千十六元米國百六十三萬六千百六十二元である、昨年同期は二千百四十四萬七千十五元で本年度より百七萬二十一元少い、香港よりロシアに向けられた量は五十八萬二千六百五十五キロとなつてゐる。

水銀、ニッケル對日輸出禁止

國府經濟部は各省政府に對し各港岸の水銀並びにニッケル輸出を嚴禁のため次の如く通令した。

我國海關の民國二十六年七、八、九月統計を看るに日本向け水銀輸出は一萬三千公斤にして二十五年同期に比し略々半減、また日本向ニッケル輸

出は七千公擔にしてこれまた前年同期に比し約二千公擔の減少を示してゐる但し以上二種の鑛石は軍需主要原料にして礦事業行政にも關聯あるものなれば以後水銀並びにニッケルは直接と間接たるとを問はず日本に向け賣却することを禁ずるとともにこれが輸出を一律嚴禁す（十一月廿九日上海日報）。

アンチモニーの輸出統制

支那特產のアンチモニーは軍需用品として例年多額の輸出を見たが事變後の輸出激減に鑑み國府經濟部資源會は開發、統制に乘り出し商人の自由貿易を制限してゐる、但し海外輸出は次の如く香港に集中されてゐる。
卽ち經濟部資源委員會はアンチモニーの重工業に於ける重要性に鑑み各產地に於ける開發を奬勵、精練技術の改進を圖るほか統制を實行、全國銻業管理處を組織し買付け並びに輸出を爲さしめ、當業者が自由貿易を爲し得ざるやう商人の個人的輸出に制限を加へ、毎月一、十、二十一日の三回を限り市場を開かしてゐる。また輸出貿易は專ら香港に集中、既に上海方面の輸出は完全にその跡を絕つたと云はる。

溫州港

「溫州輸出激增

最近温州を經由して輸出した福建、浙江、湖南、安徽、廣東、廣西各省の貨物は相當な金額に上り今年五月より十月迄の六ケ月間の輸出額は十億元以上に達して未曾有の記錄を作つてゐるが、輸出品は生絲、茶、陶器、桐油、棉花、五金等を含んでゐる。

二、遂に封鎖

溫臺防司令は最高當局の命に據り十一月一日より溫州甌江への船舶出入も絕對に禁止することに決定、この旨上海－溫州線に就航の各汽船會社に對し通達するところあつた。

393
90

昭和十四年一月十六日印刷
昭和十四年一月二十日發行

編輯兼發行者　日本國際協會
東京市麹町區丸之內二ノ十二

兼印刷者　右代表者　赤松祐之

終